

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
 毎月1回1日発行  
 定価1部15円  
 印刷所 田辺印刷株式会社  
 上田市原町 TEL1492

# 千曲会報

編集兼発行人 小林尚一  
 発行所 社団法人千曲会  
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
 振替長野6243・東京43341  
 電話上田1215(代表)1218(直通)

## 絹織維の将来性 (2)

信州大学教授 呉 祐 吉

### (3)化学織維の第三次アタック (合成絹糸の問題)

ナイロンは天然絹糸にかくも大きなアタックを与え、その分子構造の中には本質的に絹織維と同じ部分が存在はしているけれども、絹織維の分子構造に比較すれば問題にならぬ程簡単であり、やはりナイロンはナイロンであり、絹とは程遠い高分子化合物である。従って両者はその消費面で夫々に最適な独自の領域を開拓してゆき得る可能性をそなえている。さて天然絹糸そのものの構造は可なり詳細に研究されてはいるけれども、その真の姿は未だに把握し尽されてはいない。その構成アミノ酸の種類は17種類に及び、その配列の順序も推定の域を出ていない。これを現在人類が活用し始めている高々、数種類のモノマーからなる合成織維の構造に比較すれば、問題にならない程複雑で、絹織維と寸分違いはない分子構造の物質は到底合成することが出来ない。かかる意味においての“完全合成絹糸”の出現は永久に問題にならないと云ってもよく、実際問題としてかかる完全合成は無意味な努力と云わなければならない。

むしろ我々が天然絹糸に要求する諸物性を発現する様な最少限度のアミノ酸成分から成る、“ポリアミノ酸織維”の出現こそ近い将来において問題となる可能性が有る。

筆者がポリアミノ酸の研究に着手したのは既に二十数年前であるが、その後世界各地で活潑に研究が進められ、その中でも「合成絹糸」を目ざす研究はイギリスのコートールド社のメイドンヘッド研究所、アメリカのデュボン社の研究所等において先駆的に進められ、既に相当数のパテントが提出されている。コートールド社は世界最古のレイヨン、メーカーであり、デュボン社は世界最初のナイロン、メーカーである。この第一次と第二次の天然絹糸への攻撃の両勇が第三次のアタックを目ざして“合成絹糸”への目標を執拗に追っている。ただポリアミノ酸織維の合成で最も大きな問題は原料アミノ酸の高価なことであったが、最近では情勢が大分変わって来た。とくに各種のポリアミノ酸織維の合成と試作が進められ、それ等の性能も次第に明確にされ、天然絹糸に肉迫するかに見えるものも現われ始めたのでモノマーの合成も非常に真剣に考えられる様になって来ている。わが国においても最近全国的にその関心が高まり合成並びに紡糸の試験が熱心に進められている。

然しアミノ酸の種類は多くポリアミノ酸の種類も相当な数にのぼる可能性はあるが、織維の性能と製造過程と経済的條件のすべてを満足する様なものは存外に少いであろう。これ等の条件に合格したもの丈が現実の“ポリアミノ酸系合成織維”として登場“合成絹糸グループ”となるであろう。骨格高分子鎖の結合様式だけから見れば天然絹糸もポリアミノ酸織維もナイロンも同じポリアミド系織維に属する訳であるが、ポリアミノ酸織維は天然のポリアミノ酸織維である天然絹糸と同じカテゴリーに属するから性能はナイロンよりも更に絹織維に肉迫する可能性が考えられる。然し前述した通り天然絹糸の完全合成は不可能と考えられるから、決して絹と

完全に同じものの現われる可能性は無い。然しながら最も天然絹糸に近接した一群の合成織維となるであろう。

これ等の中から第三次のアタックを絹織維に与える様なものが現われるかどうかは将来の問題ではあるが、ナイロンの出現以来次々に登場した他のタイプの合成織維の中から現われるよりも遙かに可能性は大きいと考えなければならない。前述の如くポリアミノ酸系合成織維は天然絹糸に近接する可能性は有るが、完全に同じものは現われない。然し乍ら絹織維の欠点を除去し然も新しい特質を賦与する工夫は可能である。これは絹織維にとつては一面脅威ではあるが、反面、絹織維の品質改良に対しては最も確実な指針を与えるものである。現在までも絹織維の構造を明かにしその性能を向上する為にかかるモデル物質の合成は屢々行われ効果を挙げて来ている。かかる意味合いに於てポリアミノ酸織維の合成は、絹織維それ自身の改良発達の為に非常なプラスとなるであろう。

又ポリアミノ酸織維の特質として、それ等を構成するポリアミノ酸分子同志のブレンド(混溶)が容易で、ヴィニール系の様に相分離を起さない。従って天然絹糸を構成する天然ポリアミノ酸分子である処のフィブリン分子とも混溶が可能であろう。これは将来、新しい或る意味では天然絹糸よりも優秀な更生(再生)絹糸の可能性を示すもので、蚕糸業の抜本的な改革の端緒となり得ないとも限らない。何れにしてもポリアミノ酸織維の研究とその発達に対しては絹織維研究者は目を離してはならない。むしろ積極的にこれを活用すべきものと思う。

### (4)絹織維の将来性と問題点

以上で天然絹糸が化学織維から受けた影響について回顧しその影響の本質を検討し、更に将来も尚受けることとすれば如何なる可能性が有るか、又これに如何に対処するかに就いて述べた。化学織維が絹に与えた関係は他の天然織維についても多かれ少かれ、又時間的の相違こそあれ、本質的には同じ問題で人知の発達過程において、すべての天然織維が受けるべき共通の歴史的運命であると考えなければならない。

ここでもう一度ナイロンが蚕糸業に与えた大きな影響について考えて見よう。勿論ナイロンと絹織維の本質的な近似(絹のよさに対する)と、然も相違(絹の持たない特徴)の双方に起因していたことは前述の如くであったが、予想以上に急激に予想以上に深刻な打撃を受けた原因は、むしろ日本の生糸が余りにもアメリカ一國に然も一種類の最終製品である婦人の靴下に需要が集中していた為であったと思われる。明治以来日本の蚕糸業は蚕品種の改良から製糸技術、加工技術に至るまでアメリカ婦人靴下向けに焦点が絞られ、検査規格に至るまで、ここに重点が置かれて来た様に思われる。考え様によっては原料の提供に終始する植民地的立場に置かれて来たことさえ云つてもあながち過言ではあるまい。

絹織維の用途は云う迄も無く靴下用メリヤスに限ったことではなく、広範囲の織物に向けられるべきものである。ところ

### 火災見舞御礼挨拶

昭和37年1月28日

社団法人千曲会 理事長 荻原清治  
厳寒の折から会員の皆様にはいよいよご健祥にわたらせられご活躍のこととお慶び申上ます。

さて皆様にはすでにテレビ、ラジオ、新聞などで母校の火災を知り驚がくされたこととお察し申上ます。吾々地元の会員は、その驚きは何物にもたえようがありませんでした。玄関前のヒマラヤンダ、樺の大木と共に母校発展の歴史を伝えていた旧本館が炎々たる火につつまれているのを見手の下しようもなく只々地たん駄ふむばかりでした。上田市や附近の消防団の全機能をあげての消火で研究室や建物への類焼がなく、また人員の負傷もなかったのは不幸中の幸でした。学生の授業は一日も休むことができないので研究室や特別教室などを利用し30日から開講することになりましたのでご安心願います。

母校は昨年来改新の息吹きが学内にみなぎっているときこの突発事故は何としても残念でなりません。母校職員学生一同は固い決意をもって一日も早くその復興することを念願し、懸命の対策をたて努力をしています。わが千曲会においても万難を排し総力を結集して復興に協力しようと覚悟しているのであります。本会はとりあえず来る7日緊急理事会を開催し協力対策をたてることになっております。会員各位にはそれぞれの立場において母校の復興のためご協力賜りますよう心からお願い致します。

最後に出火に際しては逸早く馳せつけ下され、安否を案じ、お見舞をよせられた各位に対し心から厚くお礼を申し上げてご挨拶と致します。

が蚕品種の改良とその普及の如きは一朝一夕にこれを交換することは困難であり、検査規格にしても長年の習慣と制度上の枠を改訂することはなかなか困難であろう。

ナイロンの出現によって日本生糸の対米輸出は、明らかに激減したのであったが、その反面、日本絹織物の対米輸出は年毎に増加の傾向を示している。ことに1959年度の統計は前年度に比較して51・5%の増加を示し、147億円に達している。政策と宣伝の宜しきを得れば、この傾向は更に拡大し得る可能性がある。輸出の増進、ひいては蚕糸業の将来はさほど悲観するに及ばず、とする意見が生れて来る。

ところがここで考えるべきことは長年の努力と改良とによって婦人靴下用としては最適であった日本の生糸が、そのままの姿で、広範囲の織物、とくに厚手の織物にまで適しているかどうかの問題である。

最近アメリカ市場における日本絹織物の価格と数量とに就いて、調査が行われた。アメリカに於ける絹織物1平立碼当りの輸入価格から見ると日本製の平均54仙に対し、欧州製品はその約5倍の2弗52仙になっている。然しこの大きな開きは日本の絹織物が薄手物が多い為で、織物1封度当りの価格を比較すれば欧州製品の11弗45仙に対して日本製品は6弗34仙で、欧州製品に較べ45%安いだけである。然もこれは欧州品の先染高級品に較べて日本製は加工度の低い白生地(羽二重など)が多いからだとされている。ところが右の様な統計的判断だけからでは日本製品の品質に関する反省は何も生れて来ない。価格の相違が品質に如何に影響されているかを判断する為には、同じ組織と目付、同じ加工度のものに就いて各国のものを比較検討して見なければ解らない。

最終製品の場合ではあるが、事実ネクタイにしても、婦人服にしても、ニューヨークに於ける日本製品は欧州物に比較して僅かにその5-6分の1の価格をもって販売されている

と云う。この大きな価格の相違の中には、勿論デザインの優劣、民族的趣向の相違、販売政策の違い等が含まれているであろうが、この価格の相違がうなづけるに足るいなみ難い品質の相違、ことに風合いの違いが見出されることが2、3の訪米専門家によって異口同音に伝えられた。この品質、風合いの明瞭な相違ははたして何に原因するものであろうか、日本生糸と欧州生糸の性状の相違に起因するものであるとすれば、これは憂慮すべき大きな問題である。この問題を科学的系統的に検討、追及すべく開始されたのが“輸出生糸の改良研究”であった。はからずもこの全国的総合研究の総括責任者なる立場に立たされたが、幸にして全国試験研究諸機関の努力で今年度は一応の結論を纏めあげる処へまで到達した。これを要すれば長年の努力と改良とによって発達した、日本の蚕糸業、婦人靴下用としては最適とされていた日本の生糸(1、2の例外はあるが)ではあったが、そのままの性質、形状では、織物、ことに厚手の織物に(柔かさや腰とを同時に持つ様な)風合いを与えることは困難であることが明かとなった。極端な表現をすればペーパーライクな織になり易い所謂風合いの無いものになってしまう。

これは繊維の集合体である織物の繊維物理学の課題として解決すべき問題で、構成生糸束の横の方向の圧縮弾性率が最も大きな影響を与えることが明かとなり、これが為には、生糸に非常に僅かであるが、繭繊維のカール形態を残存せしめることが問題となる。これが為には製糸工程で強いストレッチをかけることは禁物で、又同じストレッチのかかる条件下では太繊維の繭の方がより有利であることが考えられる。又風合いの優劣の定量的比較には所謂経験者の“感”にだけ頼っていたのでは不可能で測定可能な物理量との関連において、判別函数等によって定量的に表わすことが必要となった。

結局原料生糸の性質、形状の僅かの差異が非常にデリケートに最終製品の品質風合いに影響することが明らかとなった以上は、主としてアメリカ婦人靴下に適応すべく片寄って発達した日本の蚕糸業はここに再検討を必要とする。(一)蚕品種の改良、選択にしても(二)製糸技術の改良にしても(三)加工技術の工夫研究にしても繭繭及び生糸の検査規格、格付けにしても、将来発展さすべき最終製品の種類と数量とに応じてあくまで、そ等々の関連性において計画的に検討、研究、考察、実行をはからなければならない。かかる意味合いにおいて、“生糸までは農林省、織物からは通産省”と云う行政上の分担は、その間に緊密な連絡協力を欠く場合には非常に大きなマイナスとなるであろう。幸にして今回の総合研究においては農林省関係の製糸試験所、蚕糸試験場と、通産省関係の繊維工業試験所等が密接に協力され、ことに蚕糸試験場に繊維部が設けられ、又繊維工業試験所とも人的の交流が行われ蚕品種から織物仕上に至るまでの一貫的研究が遂行される様になったことは喜びに堪えない。考えて見れば今回の“輸出生糸の改良研究”は第一図にも現われている通り、日本絹靴下が明瞭にナイロン靴下に置き替えられてしまった終戦直後即ち今から15年前にいち早く着手すべき問題であった。然し今からでも遅くはない。1日でも速かに将来の晩回発展にそなえて、さらに徹底した系統的研究が進められることを願ってやまない。榮枯盛衰は世の常である。蚕糸業を在りし日の繁栄にまで挽回することは恐らく不可能であろう。現在の2倍にまで発展さすことさえ容易な業ではあるまい。吾々は、天然繊維の担うべき歴史的運命の本質を解析し、自覚し、この自覚の上で立って、組は絹として、最大の福祉を人類の衣服生活にもたらすべく努力しなければならぬものと思う。(本稿は農林省蚕糸業振興会の委嘱によりその資料として提出したものである)

### 火災見舞御礼挨拶

謹啓 酷寒の初高堂いよいよ御清栄の段慶賀の至りに存じ上げます。

1月26日夜本学部の出火に際しましては早速おかけつけ下され御好意を戴いた当地の方々、御丁寧な御見舞を下さいました各地同窓各位に厚く御礼申し上げます。

皆様にご迷惑をお掛けいたしましたことを衷心からおわび申し上げます。幸いに旧本館を焼失したのみで研究室其の他は無事でありましたので1月30日より平生通り授業を開始しましたので御放念願い上げます。

なお、この上は1日も早く復興いたすため全学部をあげて努力する所存でございます。今後ともなにとぞご支援の程よろしくお願いいたします。

とりあえず御礼ご挨拶申し上げます。

昭和37年1月28日

信州大学繊維学部長 小泉 清明

### 繊維学部旧本館全焼

1月26日20時40分母校繊維学部旧本館玄関東南側階下附近より突然出火。最初の発見者は現本館佐藤研究室において卒業論文作成中の繊維工業化学科学生戸崎近雄君で直ちに宿直守衛に連絡、上田市消防団近郷消防団のポンプ約30台が駆けつけ消火にあたったが消火程が凍結して初期消火活動にぶらせたが出水後全機能を発揮した。一方職員学生も消火につとめたが遂に旧本館二階建1棟延441坪を焼失22時20分鎮火した。幸い風がなく他の建物教官研究室および事務室等には全く被害がなかつたことは不幸中の仕合せであつた。

焼失した旧本館は母校開学と同じ大正元年10月建設の建物で千曲会員には全学年を通じ思い出の学舎で50余年にわたり我が国繊維産業の発展と推移を共にし幾多有為の人材を養成した伝統ある由緒深き建物であつただけに誠に遺憾至極である。

学部は恰も学部改新に邁進中で昨年より繊維機械学科の新設、既設学科の改編拡充も好都合に発足し、その完成途上であり何んとしてもこの度の校舎焼失は残念で魔の火であつた

#### 火災原因

火災原因については上田署が1月27日県警本部鑑識課の応援で出火場所と見られる旧本館階下美術室を中心に厳密に現場検証を行なっており、学部においても協力調査しておるが今のところ原因は不明であり警察も学校当局も共に原因究明

中である。

#### 焼失破壊坪数損害額

今回の火災による損害額は大体次のとおりである。

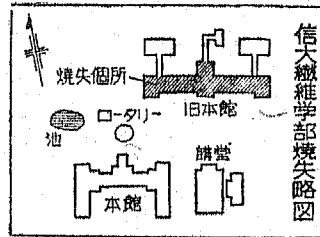
建物	木造	2階建瓦葺	1棟	217坪	延429坪
木造	1階建	亜鉛鉄板葺	3棟	12坪	延12坪
計				229坪	延441坪

工作物 室内電気配線 1式

物品	学生机腰掛付	600個	黒板	13ヶ	教卓	13ヶ
	教壇	13ヶ	ストーブ	13個	拡声機	1式
	万能試験機	本体	1個			

#### 損害見積額

建物	7,942,091円
工作物	100,000円
物品	2,700,000円
計	10,742,091円



#### 復興計画

学生授業は忽にすることは出来ないで26日夜半と翌27日に緊急教官会議を開いて製図室、化学講義室等を臨時教室に割当て2日休講したのみで1月30日から授業を開始し平常に復した。校舎復興計画については近代的な校舎復興を全学一致して期しており大学本部文部省に陳情1日も早く復興実現するように画策している。

#### 千曲会の校舎復興協力態勢

母校校舎復興については本会として全面的に協力しその対策を練るため2月7日緊急理事会を開き更にその結果によって評議員会を開催して校舎復興協力対策を協議することになった。

#### 母校に寄せられた火災見舞

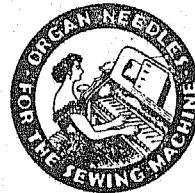
母校火災のニュースがテレビ、ラジオ、新聞等で伝わると同時に全国各地から見舞電報等火災見舞が寄せられ本会にも全国各支会、会員より続々見舞電報が寄せられ、いづれも母校愛溢れる復興の1日も早いようにと切実な激励を寄せられ感胸に迫るものがある。なお学部長名をもって深甚な感謝礼状を発送した。また本会といたしまして見舞御礼を申し上げると共に校舎復興にご支援御協力賜りますようお願い申し上げます。

特許・実用新案・意匠・商標  
出願・訴訟・鑑定

### 浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20  
提第一ビル四階  
東京(591) 0764・0765

弁理士 浜 香 三  
弁理士 中 猪 之 助



オルガン

ミシン針

長野県小県郡塩田町

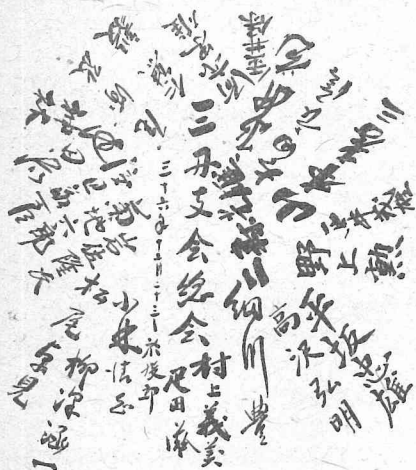
株式会社 増島製針所

TEL 塩田 650

### 支会だより

#### 三丹支会總會開かる

暮もおしつまった12月23日午後6時から、綾部市内料亭小西で三丹支会の總會が開かれた。筆者は本部から出張を命ぜられ、この總會に列するの光栄に浴した。さすが充実した支会の名には必ず、総会員53名中のほとんど半数の25名が出席され、非常に盛会であった。綾部市はいうに及ばず、八鹿町、亀岡市、さらに遠く日本海に近い峰山町から泊り込みで出席されるものもあった。まず小林清志支会長の挨拶があり、太田良信代議員が千曲会總會に出席された報告を詳細にされた。筆者も母校の現状、将来の方針、募金のこと、針塚先生追想録刊行事業の進行状況などについて報告した。ついで役員改選のことが議題に上ったが、小林清志支会会長、細川豊副会長の留任にきまつた。總會につづいて和やかな懇親会に



はいった。2・3日前に旧職の永井覚氏の学位論文(農学博士)が九大をパスした朗報があり、その祝賀をかねるようなことになった。この支会は、若手が実に活発であり、また実によくとけ込んで居り、たのもしいと思った。夜半近く万才三唱し散会した。

#### 出席者26名順序不同

- 内田訓之亮(蚕13) 林 秀門(糸19)
- 阿野 忠雄(蚕28) 仁熊 毅(化2)
- 神林 茂(糸37) 柳沢涵一(学紡3)
- 山本 孝三(旧職) 森本 影(蚕27)
- 細川 豊(蚕19) 平坂忠雄(学蚕2)
- 村上 義美(糸24) 疋田 滋(学糸9)
- 小林 清志(糸17) 太田 良信(糸17)
- 尾崎 孜(糸25) 西井 芳雄(糸26)
- 岩佐 隆次(糸29) 永井 覚(旧職)
- 菊地 六郎(蚕27) 金井 保(蚕34)
- 渡辺敬一郎(蚕30) 池田 滋(蚕32)
- 二森 光雄(蚕35) 高橋弘明(学化8)
- 野上 勲(学化8) 松尾 卓見(蚕28)

(松尾記)

#### 第11回卒同期会

世に“若返り”と言うことがある。植物には接木により若返り、動物は原生動物に見る合体や接合により老衰したものが新しい勢力を得て再び若返りして生々発展して行く。

吾が母校も昨年50周年記念式が挙行され、第1回卒の大先輩から新卒の若々しい千曲会員が参集して極めて盛大な祝典が催され、其の結果母校の若返りと共に今後大いに生々発展して行く基ともなり吾々年輩層の会員にとってもあの機会が身心共に新になった、所謂若返りした感があったと思う。そのような意味から吾々第11回卒業生も歳既に60となり、各科の同級会も種々の事情により漸次参加人員も減じて淋しくなってきたので、一昨年より養蚕、製糸、紡績の三科が合同しての同期会を開催することになり、最初は千葉の船橋センター、第2回は昨年母校の記念式の機会をとらえて上田の別所温泉で、今年は松本のヘルスセンター、藤井温泉ホテルで開催したのである。

この種の会合も前記の如く又それ以上極めて意義深きものであるが、物好き屋があつて音頭をとり其れに伴って協力者が続々と出て来ること、其の時期と場所が適当であることが必要条件かとも思われる。私も最初は案内を受けて千葉へ馳せ参じたが、この会合がすごく気に入ったので昨年度も又本年度も自分から進んで当番役を務めさせて貰った。偶々昨年度と同時期の10月21日(土)22日(日)両の日に互り前記の通り松本市で開催した。会員には9月中旬全員宛に会の内容と当地の観光案内書等を同封しての案内状を差出したのであるが、当日の参加者は養蚕科3名、製糸科5名、紡績科2名計10名であった。この会合は其の都度次回の当番と開催地を決定してやることになっており、昨年の会以来機会ある毎に通知して居るが昨年に比して稍々参加者少く一寸淋しく感じたが不参加の会員には夫々の都合上欠席の旨返信があり、参加者は全員了承し、まあこれだけ集合すれば大出来だと言ひ合ったのである。

真に遠路然も公私共多忙中参加された各位に対して地元の当番者(石井、水城)として感謝する。開会は午後4時30分、宴会は5時と云うのに第1番乗りは清水、浜の両君で松本駅着0.45、そこで石井当番が出迎、次に牧野、小山、香山、石原君等の面々が会場へ到着、其の後奥野、青木の両君が到着し予定より少し遅れて宴会を開く。然し宴会前から逢うと同時にようようと云う挨拶で手を握り合ひ抱き合つての懐かしさ嬉しさの情景はこの種の会合でしか見られぬもので、其上石原君の如きは洋酒の大瓶を持参してさあ

さあ飲めや飲めやと云う調子、屋外の紅葉にも優る屋内に会する面々もいよいよ紅潮、話すことはありし日の上田に於ける学生生活の思い出が続く、そこへ当夜は宴会後同宿と言うので全員気楽となり其の上三女性の接待も与って大いに飲み語り、歌い、踊り、食いと、数は十数名だが仲々の賑さ盛大さ其の内に遠路の疲れや酔が廻りつづれ込んで寢室に案内されるものあり、演芸を見に行くものあり等々、各々寢室に移り就寝した時は凡そ12時頃、その頃か按摩さんが二人来て其の内一人は朝まで按んだとのこと、これも老境に入った者共の集いかとも思はれる。

翌22日(日曜)午前9時ホテル庭先からバスに乗りして中秋の松本平から有名な美ヶ原(標高2,036米)に登山10時30



(写真前列右より水城孝勇、清水衛敏、石井謙三、一人置いて浜香三、香山清和後列右より牧野弘、青木友弥、小山清、奥野憲三、石原六郎の各氏)

分頂上に到着、約2時間、高原を散策し稀に見る秋晴れの好天に恵まれ、燃ゆるが如き樹々の紅葉の中を通り錦を敷きつめたような高山植物を踏んで或は遠く富士の霊峰を初め八ヶ岳、赤石連峰、駒ヶ岳、御嶽、北アルプス連山を望み又眼を下れば東方に上田を初めすぐ眼下に松本平や諏訪湖を眺めることが出来、文字通り日本一の美ヶ原の気分を満悦して午後2時頂上に於て会員の都合上一応散会することにし、上田、上野方面行きの方は上田方面に其の他の者は再び松本方面に夫々分かれて下山した。

開会時と散会時とは気持が反対で急に淋しくなったが明年度は小山君が当番幹事を引き受けて呉れることに決定したから又逢う明年の機会を御互に待望して散会したのである。

小山君には真に御苦勞様ですが何卒よろしく、尚会員諸君は今後共一層健康に留意してその節は多数参加されるよう、各位のますます健勝ならんことと併せて千曲会の愈々生々々と発展されるよう祈つてやみません。

12月1日

(水城記)



石川支会を開く

12月11日午後6時本部より荻原理事長を迎えて金沢市下本多町六華苑において石川支会が開かれた。

出席者は支会所属会員23名中10名であったが、旧賛助会員である朝倉先生(金沢大学法文学部)も見えられしばらくの間(他に会合があったため)会員と歓談された。

まず新野支会長(糸21)より千曲会と母校の発展のために支会として一層の協力をしたいとお話があり、次いで荻原理事長より千曲会総会の模様、千曲会と



母校の将来の発展計画についての御説明があり、母校の新時代に即した学部改新に大いに意を強くした。

続いて宴に移って、北陸の珍味ズワイガニを肴にして、老若会員に紅2点の女性も交じえてなごやかな楽しいふん囲気のうちに支会を終了した。(齊田記)

当日の出席者は次の通り。

- 荻原理事長
- 朝倉 先生 (金大法文学部)
- 石原 石司 (糸8 県養連)
- 黒田誠一郎 (糸8 古録木材)
- 新野 武雄 (糸21 生糸検査所)
- 鶴岡 要三 (紡18 大和紡)
- 堀内 竜男 (紡23 大和紡)
- 浅沼 次雄 (学紡2 帝人)
- 浅沼スミ子 (教3 生糸検査所)
- 越坂ミツエ (教5 繭検定所)
- 齊田 新次 (学糸2 生糸検査所)
- 細川 泰徳 (学糸6 生糸検査所)

浜武八男君の御逝去を悼む

鹿兒島支会 中山 吉二

去る昭和36年12月6日浜武八男君(蚕32回)は今回川内農林事務所へ栄転され

県配車の単車新車を受取りに出県され辻義男(蚕24)氏の交通事故の注意等を受けて新車に乗って川内へ向う国道東市来湯之元から市来町の間下り坂カーブの所でトラックが左側に停車していたので右にカーブを切った瞬間前方からハイヤーが来たので急ブレーキをかけてこれを避けんとしてスリップし車は堤防に乗り上げコンクリート側溝に墜落頭蓋骨を砕き外科病院で治療されたが事故1時間後遂に12月6日午後7時半永眠されたのである。

家族が病院にかけつけた時には既に御逝去後で死体は郷里薩摩郡那答院町大村上手の自宅に運こばれ12月8日土葬された。

辻、兄玉兄より私に電話連絡があったが不幸にして私は指宿市の同業者の死去で葬儀委員長で行けず辻、兄玉兄も公用でやむなく出席出来なかつた事は返す返すも残念であった。

その後引き続き私は公用で岡山、山口県へ出張漸く本日(12月17日)日曜辻兄と打合わせ那答院町の自宅を訪問した。折柄天気つづきの晴天が今日は早朝から雨で雨中20余里をハイヤーで訪問3時間近く家族の皆さんと涙ながら生前のことや今後の事などについて話し合った。

浜武君は其の前夜県から単車配車になってその一切の手続をすませ明朝6時その受取りに行くのだと近來にないよろこびですっかり疲れたと休み翌朝いそいそと宮之城から川内を経て鹿兒島県庁へ行ったのが死骸となって帰ろうとは……

浜武兄の敵父も昭和33年6月6日午前9時養蚕指導に行つて同じ交通事故で御逝去されて未だ3年たつたたぬ内に又同じ交通事故で他界されるとは如何なる因果かと家族皆さんの御嘆きは一入でお慰めようもなかつた。

浜武兄は姉と二人姉弟でそのお姉さんも亦夫(歯科医)を失い(死亡)四人の子供を残され貯えもなく反つて借財を残され全く収入の道もなく生活に困っているのを見かね親子5人を浜武君が引取つて面倒を見ていたのであった。

浜武君は小学3年生の長男を頭に6才と3才のお嬢ちゃんをかかえ計7人の子供に未亡人3人計10人の大家族何等の収入もなく農地法で土地も失いながら大きな家屋及び家族税金は多く今後如何にし

て7人の子供を教育し生活して行くかが重大問題で途方に暮れておられた。

浜武君は父ゆずりの仕事熱心で快活で併も自己を没却して健康を自漫に昼夜の差別なく全精力を仕事に傾中していた宮之城地区を県一の養蚕地に盛り上げたのも親子二代の献身的指導の賜物と云つても過言でない。今回の栄転で川内地区を必ず宮之城を超越して見せると意気込んでおられた。上司は勿論同輩も氏の努力を期待していただけに君を失つた事は川薩は勿論県としても非常な損失である。まことに前途有為な惜しい人物を失ひ悲嘆痛惜に堪えない。

県としては「公しよう」として目下手続中である。ありし日の快活で元氣一杯張切屋の君が単車で県内を東奔西走席の温たまる暇もない多忙振や未だ嘗て支部会に欠席した事もなく宮之城から志希志又指宿迄出張先から単車で乗りつけ無茶なことも再三であった。本年7月鹿兒島市で兄玉兄の御世話で鹿兒島支会の際(千曲会113号8月1日記載)交通事故其の他の事を心配して注意したのが私として此の世の最後の別れとなつたのである。辻義男兄と共に県蚕糸業の指導を荷なつて立つ1人を失つた事は実に残念に堪えない。

県としては更に親子二代の県蚕糸業に尽した偉業は充分認められているので遺族の事については充分御考慮頂けるものと思われまふ。

私たちも鹿兒島支会としても個人としても亦千曲会、同期生又は特に親交深い有志と共に発起人となり君の遺児養育資金を募集したいと存じます出費多端の折甚だ恐縮ですが皆さんの御賛同を得れば此の上もない幸であります。

因に未亡人教子さんは愛児を老母に託し職業婦人として働く大決心でありますので私達も協力職を探す事を約束して辞しました。

遺族住所 鹿兒島県薩摩郡那答院町大村上手 浜武敬子  
茲に謹んで君の霊の冥福を祈りつつ不足のペンを置きます。

(36年12月17日夜更記す)

故浜武八男氏遺児養育資金募集

鹿兒島県川内農林事務所勤務の浜武八男氏(蚕32)は昭和36年12月6日公務執務中交通事故のため御逝去されました。前途有為の同君の死を悼み遺児養育資金を募集いたします。

- 1, 金額 200円以上御随意
- 1, 締切 6月末
- 1, 送り先 鹿兒島県庁農産蚕糸課 辻 義雄
- 発起人 鹿兒島支会長 中山 吉二  
信大繊維学部繊維農学科主任 山口定次郎  
同期生 宮原 豊 広瀬 洋  
中村 盛一 岩田 正人

信和紡績株式会社

取締役社長 馬場友清

長野県小県郡塩田町大字八木沢  
電話(塩田) 630番

**昭和37年度入学志願者募集**  
 信州大学繊維学部では次の要領で昭和37年度入学志願者を募集する。  
 1, 募集人員  
 繊維農学科約30名。紡織工学科約60名。繊維工業化学科約35名。繊維機械学科約50名。  
 2, 出願期日  
 昭和37年2月12日(月)から  
 昭和37年2月21日(水)まで  
 3, 入学試験期日および時間割  
 3月23日(金)  
 9.00時から11.00時まで 理科  
 11.20時から12.20時まで 国語  
 13.10時から15.00時まで 英語  
 3月24日(土)  
 9.00時から13.00時まで 数学  
 11.20時から12.20時まで 社会  
 4, 試験場  
 上 田 信州大学繊維学部(上田市常入)  
 東 京 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚町35)  
 名古屋 名古屋大学工学部(名古屋市中千種区不老町)  
 大 阪 大阪大学教養部(分校)(大阪市豊中市柴原32)

**上田繊維科学振興会  
 研究助成金交付希望者募集**  
 50周年記念事業として発足した上田繊維科学振興会は研究助成金交付希望者を同会則第4条第1項によって次のとおり募集する。  
 1, 応募者は千曲会の正会員および賛助員(信州大学繊維学部教職員)又はこれらを中核とする団体とする。  
 2, 応募者は個人または共同研究としある程度の成果を得ているものとする。  
 3, 応募者は4月15日までに本振興会理事長あて研究課題, 目的, 計画概要, 研究経費を提出する。  
 4, 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。  
 5, 研究助成金は5月末までに交付する。  
 6, 研究の助成をうけたものは助成金の交付決定してから1年を経過し6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。  
 7, 助成金成果の概要は千曲会報誌上に公表する。  
 8, (3)の研究計画概要様式は本会あて申込み送付するから振って応募されたい。

### 母 校 ニ ュ ー ス

#### 矢木博教授学位論文パス

繊維農学科土壌肥科学担当の矢木博教授はかねて主論文“酸性土壌に関する2, 3の知見ならびに改良に関する研究”を九州大学農学部へ提出中であつたが12月29日大学教授会を通過し目出度く農学博士の榮譽を得られることになった。

#### 繊維農学科田中茂光助手学位論文通過

繊維農学科田中茂光助手(繊維農学科2回卒)はかねて学位論文“家蚕卵における孵化の群週期性に関する研究”を東京農業大学に提出中のところ昭和36年12月20日の教授会を通過し農学博士の榮譽を得られることになった。

#### 学部職員のスキー教室開かる

去る1月9日, 10日の両日にわたり, 菅平において当学部スキー同好会, 並びに教職員組合共催によるスキー教室が開かれ, 30数名の多数が参加した。

講師には, 高木春郎先生の知人で農林省蚕糸試験場に勤務されている紺野宏氏と当学部職員の今井輝雄氏があたり, 参加者はスキーの基礎技術を受講しながら愉快な一日を過した。

#### 繊維工業化学科に有機合成化学講座新設

37年度から繊維工業化学科に新しく有機合成化学講座が設置されることになった。有機合成化学は最近目覚しく発達している石油化学, ガス化学工業に最も必要なものとされており, これがないと新しい高分子化学も発展しないとさえ云われている。現在化学技術者中最も不足しているのは有機合成化学と化学工学と云われ, 他の大学には学科として新しく

設置されている。本学部も学科とまでは行かなかったがこれが認められ, 来年度から教官定員も増し講義も開かれる模様である。新時代にマッチした教育を受け技術を身につけた卒業生の巣立つ日もそう遠くはないことと思う。繊維工業化学科もこれで更に一步前進することだろう。

#### 高分子工学研究所設置か

本学部は学部改新を着々行なつて居りそのため業界から寄附金を集めているがその要望にそつて, 来年度高分子工学研究所が設置される模様である。併しその内容については今の処明らかにされていない。高分子の物性を主として研究するのか, あるいは, 有機合成化学も含め広く原料の合成, 重合, と広範囲の研究を行なうのかは, 今後追つて明らかになるものと思われる。

#### 教官宿舎地鎮祭執行

学部改新时期同盟会においては繊維機械学科の新設, 拡充等に伴う職員宿舎の不足を緩和するため職員宿舎5棟を運動場東北隣に新築することになりこの地鎮祭を1月11日上田市収入役小宮山太助氏及同盟会役員参列厳肅に行われた。なおこの宿舎は完成の上は国に寄付することになっている。

#### 蒲生俊興氏長野県蚕糸業審議会委員に再選さる

36年12月1日付蒲生俊興氏(信大名誉教授)は長野県蚕糸業審議会委員に選任発令された。なお長野県蚕糸業審議会委員の定員は5名で千曲会員では蒲生俊興氏の外に猪坂直一氏も同委員である。

### 本 会 記 事

#### 千曲会厚生施設予定地調査

12月8日山口理事, 町田理事は22回定期総会において本部に一任された本会厚生施設土地について長野県観光開発公社に分譲地状況について調査し, その後3回にわたり北佐久郡軽井沢寄の現地を調査し契約の運びになる予定である。

#### 学内理事会開催

1月27日学内理事会を開催し, 1月26日夜不慮の火災により母校旧本館全焼の災難を蒙つたので本会として母校校舎復興に協力するため2月7日午前11時より緊急理事会を開催し協力対策を協議することになった。

#### 内川勇氏(蚕13)理学博士となる

愛媛大学教授農学博士内川勇氏はかねて北大理学部へ提出中の学位論文“普通系コムギにおけるX-線誘導突然変異体の細胞遺伝学的研究(英文)”が同学部教授会をパスし, 理学博士の学位を受けられることになった。千曲会員で博士号二つを受けた方としては, 八木誠政博士について二人目である。詳細は次号に掲載の予定。(田口)

#### 河野太郎氏(蚕20)農学博士授与さる

片倉工業普及団研究製造所勤務の河野太郎氏はかねて九州大学に論文“蚕卵胚子の形態並びに異常発生に関する実験学的研究”を提出中の処11月7日に教授会を通過し12月1日付農学博士の名誉ある学位を授与された。

会 員 動 静

安田 勝彦 学紡7 近畿 綿スフ織物検査協会貝塚支所  
(大阪府貝塚市海塚313)  
(住) 岸和田市春木町292ノ1

白石 重昭 学紡6 東京 日本メリヤス検査協会(東京  
都中央区日本橋浜町2ノ91)

井出 敬三 学紡5 千葉 市川毛織KK(市川市市川町  
4ノ2379) 千葉県市川市新田  
町3ノ114 市川毛織宮田寮  
敷島紡績笹津工場(富山県上  
新川郡大沢野町西大沢)

池田 義信 学紡5 富山 敦島紡績笹津工場(富山県上  
新川郡大沢野町西大沢)

尾山 正徳 学紡2 兵庫 尼崎市塚口字高岡1068

湯原 健敏 学紡4 北佐久 榎井沢中学校(長野県榎井沢  
町中榎井沢)

徳武 正人 学紡8 東京 通産省繊維局織政課(東京都  
千代田区霞ヶ関3丁目)

浅輪 出 学化9 静岡 富士フィルム写真(株)吉原  
工場 静岡県吉原市

奥山 健二 化 5 神奈川 康和建设(株)横浜出張所  
(横浜市中区扇町1ノ26)

関 与志雄 学紡2 近畿 東洋紡績(株)綿工務部整備  
課(大阪市北区堂島浜通り2  
ノ8(住)大阪市北区樋ノ口町  
42東洋紡績天満社宅Dノ1  
伊藤忠商事(株)金沢支店  
(金沢市石浦町58)

藤原 孝行 学紡9 石川 第一工業製業(株)四日市工  
場(四日市市)(住)三重県  
桑名市青葉町2丁目近鉄桑陽  
台住宅224

河村 信夫 紡 14 三重 新日本化学工業KK(安城市  
昭和町)西尾市道光寺町

中村登一郎 紡 19 愛知 蝶理KK名古屋出張所合織課  
一宮市朝日通1町目蝶理KK  
真澄案内

花岡 清 学化5 愛知 県藩検定所(豊橋市前田南町)  
(住)豊橋市吉田町116 七原  
アパート内

池田 勉 学糸6 愛知 成章高等学校(愛知県渥美郡  
田原町)豊橋市高師町西沢70  
ノ6

内藤 康三 蚕 25 愛知 倉敷レイヨン(株)中条工場  
(新潟県蒲原郡中条町社宅9)

中曾根和夫 化 8 越佐 神栄生糸(株)山梨出張所  
(山梨県都留市上谷204)

秋山 二郎 蚕 34 山梨 敷島スターチ株式会社(西宮  
市雲井町54)

日幡 暎一 糸 25 兵庫 東京都北福祉事務所長(東京  
都北区豊島1丁目3番地ノ1)

雨宮 金雄 蚕 17 東京

小平 光雄 糸 13 東京 東京都豊島区千早町1~25  
電東京957局6454番

高野 憲三 蚕 26 茨城 (株)日立製作所下館工場内  
日立研究所下館分室(茨城県  
下館市大字小川1500)(住)  
茨城県下館市女方本田北日製  
社宅8号

山崎 勝弘 紡 27 兵庫 自営 神戸市生田区中山手通  
り2丁目24

鈴木 公人 蚕 34 北佐久 小諸東中学校(小諸市)長野  
県佐久市岩村田2082

中野喜久男 学紡9 兵庫 兼松羊毛工業(株)竜野工場  
(兵庫県揖保郡揖保川町新在  
家15の2)

横沢照二郎 農 5 千葉 千葉県市川市稲荷木65の17  
(勤前の通り)

柳沢 俊男 学蚕6 東京 東京都新宿区市ヶ谷田町3の  
21 花咲寮

松山仁一郎 糸 34 埼玉 昭和プラスチック工業(株)  
(川越市服田町192)(住)川  
越市服田仲ノ町418

石原 石司 蚕 8 石川 石川県養蚕販売農業協同組合  
(金沢市下本多町3番丁15  
(石川県庁別館)

柳沢 新一 蚕 31 東京 東京都中野区朝日ヶ丘3?  
桃一荘

後藤 政之 紡 2 千葉 千葉県佐倉市内田  
高崎市上中江町332

水野 広 蚕 13 群馬 富士工機(株)電設課(長野  
市栗田倉利田653ノ46)

所 幸直 紡 28 北信 興和紡績株式会社本社(名古  
屋市北区辻野9ノ1)

小沢 満 紡 26 愛知 東部町濑野中学校(長野県小  
県郡東部町濑野)小県郡東部  
町大字祿津濱の沢

芥藤 博彦 学化3 上小 (株)合津建材・取締役社長  
上田市祝町1.850電上田3.325  
(株)有沢製作所高田市南本町  
倉敷レイヨン(株)中条工場  
(新潟県北蒲原郡中条町)

合津 清 糸 35 上田 勤務先前の通り(住)広島市  
庚午南町1丁目6ノ2

峯村 達郎 学糸7 越佐 (旧姓松崎)理研光学工業  
堀内 武 化 8 越佐 (株)第一営業部(東京都中  
央区銀座4ノ5明裕ビル  
(住)横浜市中央区石川町1ノ59

土岡 光郎 蚕 7 山陽 東京都八王子繊維工業試験場  
(八王子市明神町596)  
(住)八王子市 明神町666の  
4山木アパート

柳沢 裕 蚕 37 東京

山本 忠彦 学紡7 東京

信州みやげに

信州

**武田味噌**

電話(上田)2280  
2281

編集室より

1月26日夜不慮の火災により母校旧本館全焼いたしましたことはまことに遺憾であります。旧本館は学部の前身上田蚕糸専門学校開学と同時の建築で同窓にとっては思い出の学舎で繊維産業50余年の発展推移を共にし幾多有為の人材を養成した由緒ある建物で何んとしても残念であります。幸い1月30日より学生授業は研究室等他の建物を利用して平常通り開講しておりますから御安心願います。この上は全学部を挙げて一致復興実現の所存であります何卒御支援御協力賜りますよう御願いたします。立春とはいえ余寒厳しい折御自愛專一に御活躍の程御祈り申し上げます。

編集委員 小林 尚一 香山 清和  
西村 善次 柳沢 幸男 小山 定  
大屋 正尚 一ノ瀬国興 白井 要範